

進化した学生寮は コミュニケーション能力を鍛える



トレーニングルームは男女ともに人気



「夢に向かって毎日が充実しています」



メニュー豊富なカフェテリア



分譲マンションのようなたたずまい「ドミー高尾」

学生寮のスタイルがずいぶん様変わりしたという。昔の下宿にあった人と人とのつながりはそのままに、時代のニーズに応え、学生寮は「ここまで進化していた」。

進学先が決まり、可愛い我が子を都会に送り出すとなると、やはり不安になるのは一人暮らしの生活。親としては「安全面は大丈夫？」、「ちゃんと生活できるのかしら……」と心配のタネは尽きないだろう。

「安心・安全」を求める親たちと、「快適なプライベート空間」を求める学生たちのニーズに応えた選抜肢として近年注目されているのが「学生寮」だ。

「親御さんの心配は、男子は食事、女子はセキュリティです。弊社が展開する学生寮は、オートロック、インターネット完備、プライベート空間を確保する個室が基本。それに加えて、おいしくて温かい食事が付き、学生たちを気遣ってくれる家族のような寮長・寮母がいます。」

母がいます。そうした昔からの下宿の良さをプラスした居住環境が、いまどきのスタイルです。

そう説明するのは、「共立メンテナンス」(本社・東京都)寮事業企画部の小穴喜之氏だ。同社は全国で365棟の学生寮を運営し、首都圏だけでも235棟(約20000室)を有する。人気はここ10年ほど年々右肩上がり、稼働率は97・3%を誇る。

中でも、東京都八王子市の「ドミー高尾」は首都圏最大級の規模。中央大、法政大、多摩美大など八王子エリアの大学や専門学校に通う約450人が共同生活を送っている。JR・私鉄の高尾駅から徒歩約3分の好立地。どんとそびえる14階建ての建物は、まるで

ファミリー向け分譲マンションのようなたたずまいで、「えっ、これが学生専用?」と驚いてしまう。

部屋はすべて個室。約13平方メートルの広さに家具、トイレ、洗面台が備えられ、風呂は大浴場やシャワーを利用できる。やはり気になるのは食事面のケアだが、同館では栄養バランスを考慮した朝食(6時30分～8時30分)と夕食(18時30分～23時30分)を提供する。月

寮長・寮母さんの「快適サポート」

門限は施設によって異なるが、ドミー高尾は24時間と自由度が高い。さらに、大画面テレビや卓球台があるラウンジ、試験前に学生たちが一緒に勉強できるスタディールームなども完備して、まさに至れり尽くせり。「トレーニングルームも機材が揃っていいですよ。体育会サッカー部に入っ

額に食事が含まれるプランと、利用回数ごとに精算できるプランから選べる。「食事がとてもおいしいんです。しかも和食と洋食に、パスタや麺類なども選べて、どれにするか迷っちゃう。クリスマスにはケーキがついてきて、テンションあがりました!」(ヤマザキ学園大2年の女子学生) 夜遅く、アルバイトから帰ってきて温かい食事が食べられると好評だ。

いるので、練習の補完も兼ねて毎日使っています」(拓殖大1年の男子学生) もちろん、魅力は設備だけではない。寮長・寮母が常駐し、学生たちが快適に過ごせる環境・雰囲気作りをサポートしてくれるのは、離れて暮らす親として何より心強いだろう。「行ってらっしゃい!」

今日も寒いから気をつけてね」と、毎朝の寮母さんの挨拶で、今日も一日頑張ろうって気合が入ります」

そう話す女子学生は、具合が悪くなった時にも声をかけてもらえて安心だったという。プライバシーは確保されつつ、カードキーで在室状況や食事を取っているかいないかが記録されるので、細かい心配りが可能になるのだ。ちなみに、ここは男女共用の学生寮だが、カードキーで厳重に入室が制限され、男女が部屋を行き来することは不可能な点も親には安心だろう。

また、共同生活はコミュニケーション能力や協調性も育んでくれる。「いろんな学校の学生が集まっているから、会話も刺激的。違う学校の友達もできて、お互いの部屋を歩き来して話するのが楽しいです」(男子学生)

新しい友達との出会いが

生活に張りをもたらしにくれるという。入居する学生の約1割は留学生なので、国際交流の機会も広がる。コミュニケーションの活性化を図るために、運営側も努力を惜しまない。

寮生活経験者は「就活」でも有利

昔は寮の施設をいかに充実させるか、ハード面に力点が置かれてきたが、今の時代は、それに加えて人間

長年蓄積された運営ノウハウは、今や大学や企業側からも求められているという。2014年に文部科学省の「スーパーグローバル大学(SGU)創成支援」が始まり、各校の国際化が加速する中、国際交流を意識した「国際寮」を整備する大学が急増中だ。「グローバル感覚や価値観の多様性を感じ取れる人間を育成するために、寮生活をカリキュラムの一つに挙

育成の場に重点を置いていきます。今の若い人は何かきっかけがないと動けないことが多い。皆さんが人間関係をうまく築けるように歓迎会をはじめ、季節ごとにバスツアーやポランティア活動、バーベキュー大会などを積極的に開き、人間関係を結ぶ機会を提供しています」(寮事業企画部)

育成の場に重点を置いていきます。今の若い人は何かきっかけがないと動けないことが多い。皆さんが人間関係をうまく築けるように歓迎会をはじめ、季節ごとにバスツアーやポランティア活動、バーベキュー大会などを積極的に開き、人間関係を結ぶ機会を提供しています」(寮事業企画部)

育成の場に重点を置いていきます。今の若い人は何かきっかけがないと動けないことが多い。皆さんが人間関係をうまく築けるように歓迎会をはじめ、季節ごとにバスツアーやポランティア活動、バーベキュー大会などを積極的に開き、人間関係を結ぶ機会を提供しています」(寮事業企画部)

月額7万3000円(食事別は5万3500円)。初期費用として、入館費13万円(1年契約)、保証金5万円、年間管理費17万4000円などがかかる。机やベッド、収納家具、エアコンやカーテンなども備え付けなので、身の回りのもので身軽に入居できる点もポイントが高い。

一般的な一人暮らしに必要な敷金・礼金、家具や家電などの出費、引っ越しの手間を考えれば、「思ったよりリーズナブル」という声もある。親には「煩わしい家事は最低限に。元気で学業に集中してほしい」という思いもあるようで、「意外と高額な寮から決まってしまう」ケースも多いという。

時代は変わっても子を案じる親心は変わらない。お金では得られない共同生活の価値も含めて、一考に値する選択肢と言えそう。ライター・野末友岐子